



いつか浴衣を着る日まで



国	籍	インドネシア
職	種	電子機器組立て
実習実施者		旭電器工業株式会社
監理団体		ELC 事業協同組合

ノヴァ ソリハナ
NOVA SOLIHANA

私がインドネシアから技能実習生として日本にきた理由は、技術を学ぶことだけでなく日本人の考え方や文化にふれて、自分自身を成長させたいと思ったからです。日本は、昔からの伝統を今も大切にし、人と人とのつながりを大事にしている国だと感じています。その中でも、着物や浴衣は、日本らしさを強く表しているものだと思います。

日本に来てから、「浴衣」と「着物」のちがいについて自分で調べました。浴衣は、夏のお祭りや花火大会で着られ、家族や友人と楽しい時間を過ごすための服です。一方、着物は、季節 場面 相手との関係を考えて着る服で、日本人の心づかいが表れていると知りました。ただ着るだけではなく、気持ちや行動を整えるための服だと思い、とても感動しました。

しかし、私はまだ浴衣も着物も着たことがありません。私の実習先は工場で、毎日同じ作業を正確に行う仕事をしています。安全に気をつけて働くことは簡単ではなく、失敗して注意を受けた日もありました。言葉がうまく伝えられず、悔しい気持ちで家に帰ったこともあります。

そんなとき、私の心を支えてくれたのが、日

本文化を学ぶ時間でした。浴衣や着物について知れば知るほど、日本人が大切にしてきた「相手を思う気持ち」や「ていねいに生活する心」を感じることができました。まだ着ていないからこそ、いつか浴衣を大切に着ている自分の姿を想像しながら、明日もがんばろうと思えます。

工場で働く中で、私は日本人が仕事でも生活でも「形」を大切にしていると感じました。あいさつをすること 整理整頓をすること、道具を大切に使うこと、時間を守ること、それらは、着物の着方と同じように、まわりの人を大切に思う気持ちの表れだと思います。浴衣や着物を学ぶことは、日本で働く意味を知ることにもつながっています。

また、日本の町で季節ごとの行事や飾りを見るたびに、日本人が季節を大切にして生活していることを感じます。その一つ一つが、忙しい実習生活の中で、私の気持ちを明るくしてくれました。日本での毎日は決して楽ではありませんが 文化を知ろうとする気持ちが、つらいときの支えになっています。

もし将来、浴衣や着物を着る機会があれば日本文化への感謝の気持ちを大切にして着たいです。この技能実習で学んだ技術や、努力することの大切さ、そして文化を大事に思う心を、インドネシアに帰ってからも忘れません。まだ着ていない浴衣は、私が日本でがんばり続けるための大切な存在です。